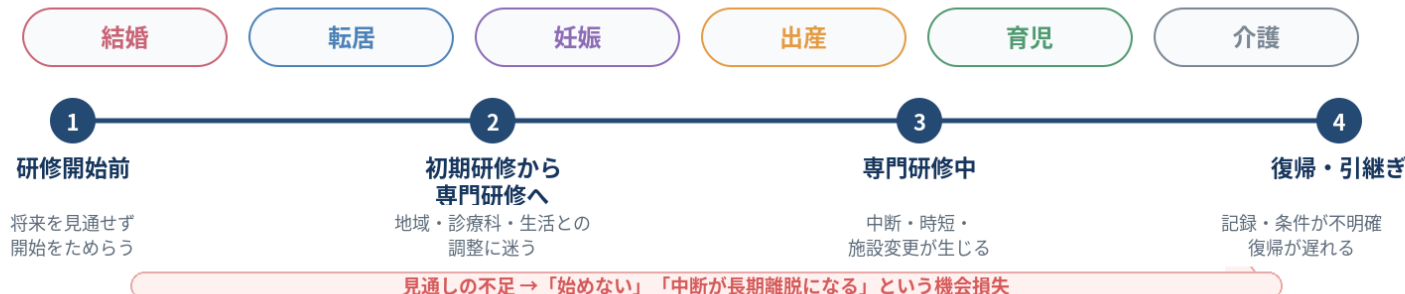


# ライフイベントを踏まえた 専門医研修 継続支援の課題仮説

妊娠・出産・育児・転居等による「開始しにくさ・中断・復帰困難」を減らす

## 1 どこで機会損失が起きるのか



## 現場ヒアリングで確かめたい2つの問い



現場では、どの段階で研修継続が  
最も困難になるのか？



既存制度があっても、なぜ  
利用・引継ぎ・復帰が難しいのか？

制度の不足か、情報・運用・引継ぎの不足かを切り分ける

## 2 支援の構想（仮説）



研修履歴を  
見える化

- 1～3か月単位の研修期間
- 症例経験
- レポート進捗
- 評価・証明資料



施設間で  
引き継ぐ

- 共通フォーマット
- 本人も確認できる
- 受入先へ必要情報を共有
- 変更・復帰時の手順を明示



柔軟に  
継続・復帰

- カリキュラム制等を選択
- 中断可能期間と復帰条件を明確化
- 勤務時間に応じて期間を調整
- 各専門領域の基準に準拠

記録する → 引き継ぐ → 続ける・戻る

## 3 期待される変化



研修開始への  
抵抗感を下げる



中断を「離脱」に  
しない



専門医取得まで  
継続しやすい



女性医師を中心に  
性別を問わず活用

ライフイベントがあっても、専門医取得をあきらめない仕組みへ

## 4 解決策を決める前に確認すること

- 研修履歴の「可搬性」が、本当のボトルネックか？
- 人員配置・指導体制・保育・地域枠義務との調整が  
より大きな障壁ではないか？